

略 歴

学 歴:	昭和49年	3月	神戸大学教育学部 卒業
	昭和52年	3月	名古屋大学大学院教育学研究科(教育心理学専攻)修士課程 修了
	平成17年	9月	博士(心理学)[名古屋大学]
職 歴:	昭和59年	4月	大阪教育大学教育学部助教授 (～平成6年4月)
	昭和63年		在外研究(米国カーネギーメロン大学)
	平成 6年	4月	神戸女子大学文学部助教授
	平成 9年	4月	神戸女子大学文学部教授 現在に至る
	平成22年	4月	神戸女子大学文学部長
	平成25年	4月	神戸女子大学学長就任



中島学長の思い描く理想の神戸女子大学像と教育研究活動の抱負をお聞かせください。

少子化が叫ばれて久しいですが、この傾向は今日でも依然として進行しており、4、5年後の平成30年以降からは18歳人口がさらに減少していく状況にあります。また、一方で大学の数は、これまで一貫して増加傾向をたどり、現在ではほぼ800校にのぼり、そのうち私立大学は約600校を数えるに至っております。このように大学を取り巻く環境はますます厳しさを増しています。このような環境にあつて、本学が今後とも課題とすべきことは、単に存立するだけでなく受験生や社会から志願者、人材育成、教育・研究、地域連携、社会貢献などの諸課題への取り組みと実績に関して高い評価を受け、女子大学として誇りある地位をこれまで以上に確かなものとする事だと思ひます。そのためには、時代の変化に対応しながら、学生や社会から求められ、存立意義が広範に認められることが必要です。本学は、教育目標として学生が求める大学、地域が求める大学、時代が求める大学として社会に貢献する女性の育成を掲げており、この点を今後もより充実させていくことが大切であると考えています。



幸い、本学は、教員一人当たりの学生数が他大学に比べて少ないという特色があります。また、開学以来、教員によるクラス担任制をとり、学生に対するきめ細かな指導やケアを行う体制が敷かれており、学生一人ひとりの教育を大切にしている大学であり続けてきたことを誇りに思ひます。今後とも、本学は関西および全国各地から希望と夢を抱いた学生が神戸の地に集い、学び、成長し、人生の目標と社会に対する志をもって世の中に巣立っていく学び舎であり続けたいと思ひています。



中島学長は教育心理学、認知心理学の授業を担当ですが学生に何を伝えたいと思ひて講義されていますか。

私が担当している授業は、いずれも心理学分野の科目です。心理学という分野は、基本的には実験、調査、検査などの方法で得られた実証的証拠に基づいて、人間の心理と行動の特性やしくみを研究する分野です。従つて、テキストや授業で説明される心理現象に関する理論や結論だけを知るのではなく、どのような実証的証拠からそれが言えるのかについても、常に考えをめぐらし、チェックしながら理解する姿勢が大切だということをお伝えしたいと思ひています。





神戸女子大学
なかしま みのる
学長 中島 實



ご自身の研究について紹介をお願いします。

専門は認知心理学、応用分野として教育心理学です。日本心理学会、日本教育心理学会、日本認知心理学会および関西心理学会に所属しています。認知心理学は、基本として人間の認知活動の特性やその仕組みを研究対象にする分野です。私の場合は、この中でも特に人間の思考や判断の特性、子どもにおける発達的变化の過程などを研究対象としています。例えば、大人の思考や判断では、確証バイアスという特性があります。これは自分の考え(仮説)を確かめるとき、その考えに都合のいい証拠には目を向けますが、都合の悪い証拠にはあまり目を向けないという特性で、結果として不十分または誤った考えを正しいと信じてしまう傾向を言います。



座右の銘を教えてください。

折にふれ、思い起こす言葉はいくつかあります。例えば、引用されることが多い言ですが「神は細部に宿る」なども銘のひとつです。実生活ではつい忘れがちなのですが、物事に取り組む姿勢として大切なことだと思っています。同様に、「世界平和のために何をすべきですか」と質問された際に、「帰って家族を大切にしてください」と話されたとされるマザー・テレサの言も、大切な真理を伝える言だと思っています。



趣味を教えてください。

しいて言えば、読書です。私小説は苦手ですが、それ以外はノンフィクションも含めて乱読します。一番好むのは、やはり時代小説です。大体は、ある作家の作品を続けて読むことが多いです。ありきたりですが、吉川英治、司馬遼太郎、山本周五郎、藤沢周平、池波正太郎などの作品は特に好きです。



神戸女子大学 全学共通教養科目全面改訂

平成25年度から神戸女子大学の全学共通教養科目のカリキュラムが新しくなりました。全学の学生が共通に履修し、教育目標を実現するための教育の根幹となる教養科目群を紹介します。

■ 神戸女子大学 全学共通教育部長から新カリキュラムについての紹介



全学共通教育部長
狩野 恭 (文学部 教授)

全学共通教養科目は、<大学で自分自身の成長に最も役立った科目>というアンケート調査(4月19日新聞紙上)があるように、大学入学生の学力低下が話題にされる近年、大学における授業カリキュラムの基礎として、文部科学省のみならず、多くの大学が重視する重要な課題です。

神戸女子大学では、このたび、平成25年度入学生より、全学共通教養科目新カリキュラムが実施されることになりました。このカリキュラム改革は、全学共通教育部の前身である<神戸女子大学教育研究機構>、さらには、その前身である<教養科目運営委員会>以来、十数年来の改革構想、議論の成果です。

そもそも大学で身につけるべき<教養>にはいくつかの要素があります。その第一は<知的精神>(spirit)を養うことではないでしょうか。広く知識を求め、物事を深く考える態度、いずれも<教養>にとって不可欠な要素です。さらには<基本技能の徹底的習熟>(skill)も教養教育の重要な要素です。語学にしてもITにしても、そこには訓練によってしか養われない<力>があります。この力が<知的精神>を具体的な力に変えてくれます。さらに、それらすべての基礎となり、支える力となるのが体力と健康(sports)です。これら、Spirit, Skill, Sportsの3つのSをカリキュラムとして実現するのが今回の改革の目標でした。さらに全体の科目の構成、役割を明確にすることも今回の改革の目的のひとつでした。

この改革によって、本学に入学してくる学生の多様な状況に対応し、本学の教育目標である、<自立心><対話力><創造性>を、本学の特色であるきめ細やかな学生指導によって実現するための土台が出来上がったことは、十数年来、教養教育運営に携わったものとしてささやかな喜びです。

■ 全学共通教養科目 新カリキュラムの構成

- (1) 基幹科目群
 - (A) 「基礎」：すべての学びの<基礎力><人間力>を養うと同時に「就職活動」の基礎となる力を培う科目
 - (B) 「女性」：本学の創立の理念にそった<女性としての生き方と自覚>を促す科目
 - (C) 「神戸と地域」：本学の特色である<地域との結びつき>を实践する科目
- (2) 基礎科目群

すべての学びの基礎となるもので、トレーニングや、トレーニングによる基礎スキルの向上を目指す科目

 - (A) 語学科目
 - (1) 英語
 - (2) 初習言語 (英語以外の世界の言語)
[ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、イタリア語]
 - (B) 情報科目
 - (C) ウェルネス科目
 - (1) 基礎トレーニング (ウェルネス入門)
 - (2) スポーツと健康の科学 (講義科目)
 - (3) スポーツ実技Ⅰ (学内種目)
 - (4) スポーツ実技Ⅱ (学外種目)
- (3) 一般科目群
 - (A) 一般科目：様々な分野を教養として、広く、深く学べる科目
 - (B) 教養総合科目：特定の分野に限定されない自由な科目や学際的科目
- (4) オープン科目群

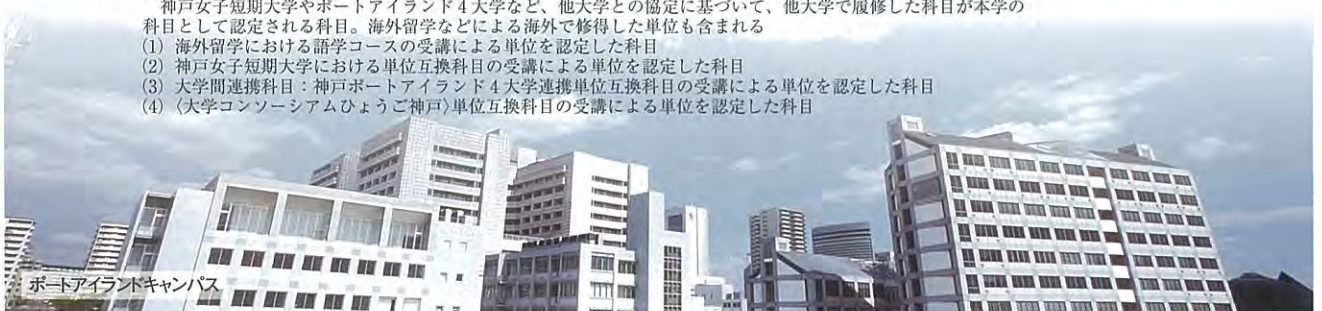
本来は各学科の専門科目であるが、他学科の学生が教養科目とし履修できるやや専門性の高い科目
- (5) 演習科目

教養演習：各教員の専門、教養に触れる少人数ゼミ
- (6) 他
 - (A) 検定認定科目

語学関係の検定試験を受検し、合格することによって認定される科目
 - (B) 単位互換科目

神戸女子短期大学やポートアイランド4大学など、他大学との協定に基づいて、他大学で履修した科目が本学の科目として認定される科目。海外留学などによる海外で修得した単位も含まれる

 - (1) 海外留学における語学コースの受講による単位を認定した科目
 - (2) 神戸女子短期大学における単位互換科目の受講による単位を認定した科目
 - (3) 大学間連携科目：神戸ポートアイランド4大学連携単位互換科目の受講による単位を認定した科目
 - (4) (大学コンソーシアムひょうご神戸)単位互換科目の受講による単位を認定した科目



ポートアイランドキャンパス

■ 新しく始まった全学共通教養科目の講義紹介

「教養総合(アジアの環境問題)」(小林 善文教授)

教養総合科目のひとつであり、学際的な科目であることから文学部、家政学部の全学科から134名の学生が受講しました。

経済発展により環境問題が深刻化しているアジア各地の水資源の確保と汚染防止というテーマで講義が進められました。

地球温暖化と気候変動が現実のものとなりつつある今日、学生の関心も高かったようです。



■ 神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科も新カリキュラムでスタートします

今日の少子高齢社会・格差社会では、高齢者・障がい者・児童・生活困窮者など、様々な生活課題をもつ人々への支援が求められています。本学科では、人間尊重と国民の健康と福祉の増進を基本理念として、誰もが人間らしく生き生きと生活し、自己実現を達成するように、ともに支えあい、ともに暮らせるような福祉社会を目指して活動する知性と感性、積極的な行動力をもつ専門職を養成しています。そのために、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家試験資格の取得と合格を支援しています。



「福祉と人権」(松崎 喜良教授)

社会福祉学科は教育の目的のひとつとして、福祉の心と豊かな人間性を備え個々人の人権を尊重し、かつ柔軟に発想し工夫し開発・実行できる人材を養成することを掲げています。社会福祉の対象者の人権を考えどのような援助が必要なのかを学習します。社会福祉を学ぶ学生にとって今後の専門科目の基盤となる視点を確立するための授業です。

78名の学生が受講しました。

■ 神戸女子短期大学 総合生活学科も新カリキュラムでスタートします

衣・食・住、情報など、生活全般にわたる基礎・基本知識を、学科基礎科目として学びます。専門科目としては、9科目群（基礎デザイン、服飾デザイン、フードデザイン、住居デザイン、ビューティデザイン、ビジネス、コミュニケーション、情報、心理）と1コース（中学校家庭科教諭教員養成コース）の中から、学生は自らのキャリアデザインと希望する資格取得に応じて、自主的に、自由度高く履修計画を立てて学ぶことができます。実践的な語学教育をはじめ、就職を意識した資格や検定試験の導入、実習を多く採り入れた内容で、平成25年度から学科再編による新しいカリキュラムを実施しています。

「プレゼンテーション概論」(中川 伸子教授)

新カリキュラムの科目群のひとつ、コミュニケーションの分野の授業です。

学園の教育目標のひとつ「対話力」を高めるためにもプレゼンテーション力は必要です。自分の言いたいことを場面に応じて適切な表現で相手に伝えるために理論と技術の両面を学びます。「プレゼンテーション実務士」資格取得の必修科目でもあり、プレゼンテーションの実技も採り入れた実践的な授業は学生に好評でした。

54名の学生が受講しました。

